

物質化学専攻	研究分野	有機化学	Lab. ID MC04
研究室Webサイト	https://org-chem.w3.kanazawa-u.ac.jp		
研究課題の概要 我々の研究室は、有機合成化学を基盤とし、生命科学への貢献を目指しています。分子レベルでの「ものづくり」に取り組み、新しい反応や分子の開発を通じて、創薬や材料科学、バイオテクノロジーの発展に寄与します。特に、環境調和型の合成手法の開発や、生体機能を解明・制御する分子ツールの創製に注力しています。また、未知の化学現象の探索にも挑戦し、有機化学の可能性を広げることを目指します。「あっと驚く何か」を見つける探究心を大切にし、生命科学と化学の融合による新たな価値創造に挑戦し続けます。			
博士前期課程/後期課程院生の指導方針、具体的なカリキュラム、研究室での活動等 「触媒的不斉反応」、「新規反応の開発」、「低分子ゲル化剤の創製」、「分子プローブ開発」の4つの柱を中心に研究を展開しています。有機化学の最先端研究を通じて、学生の主体的な思考力・実験技術・学術的発信力の向上を目指します。特に、「自ら課題を提案し、それを実験的・論理的に解決する能力」を養うことを重視し、独創的な研究を推進できる人材の育成を行います。指導は、個別の研究指導とともに、グループディスカッションを通じた知識共有を重視し、チームとしての成長も促進します。 研究報告会(週1回):研究進捗を発表し、教員や他の学生からフィードバックを受けることで、研究の方向性を明確にします。 雑誌会(週1回):有機化学関連論文を紹介し、分野の動向を把握するとともに、論文を批判的に読む力を養います。 輪読会(週3回):最新の科学関連論文を読み、英語力、科学力を養います。			
研究室生活の紹介等 本研究室では、朝9時から研究活動を開始し、集中力を保つため夜間までの実験は基本的に行いません。昼間の時間を有効に活用し、計画的かつ効率的に研究を進めることを推奨しています。 各自に実験台とデスクワーク用の机を備えた十分な研究スペースが確保されており、快適な環境で研究に専念できます。 また、国内外の学会発表や論文執筆を積極的に支援し、プレゼンテーション能力や研究の構成力を養います。さらに、研究成果の発信を通じて、広い視野を持つ研究者の育成を目指します。 定期的に懇親会や親睦会を開催し、研究室内の交流を深めることで、メリハリのある充実した研究生生活を実現します。			
教員からのメッセージ 「失敗なくして成功無し」— 有機化学の研究において特に重要な考え方です。新しい反応の開発や未知の分子の合成に挑む中で、思い通りに進まないことや、予期せぬ結果に直面することは避けられません。しかし、そうした「失敗」の中にこそ、成功への手がかりが隠されています。 実験がうまくいかなかったとき、その原因を徹底的に分析し、次の一手を考える。その積み重ねが、やがて大きな発見やブレークスルーにつながります。大切なのは、失敗を恐れず、むしろ学びの機会として前向きに捉えることです。研究には時間と努力が必要ですが、試行錯誤の先にしか本当の「成功」はありません。私たちは皆さんの挑戦を全力でサポートします。一緒に、有機化学の新たな可能性を切り拓いていきましょう！			
研究室連絡先メールアドレス	添田貴宏: soeta@se.kanazawa-u.ac.jp		